

平成30年県民意識調査結果（テーマ別）

【概要版】

平成31年3月
宮 城 県

目 次

I 調査結果	1
1 テーマ別項目	1
(1) 宮城の治安について	1
(2) 救急電話相談ダイヤルについて.....	5
(3) 気候変動の影響への「適応策」について.....	8
(4) 地方創生について	11

I 調査結果

1 テーマ別項目

テーマ別項目として、「宮城の治安について」、「救急電話相談ダイヤルについて」、「気候変動の影響への『適応策』について」及び「地方創生について」を調査したところ、次のような結果となりました。

(1) 宮城県の治安について

調査結果の概要

【宮城県の治安の実感について】

- 県全体で、宮城県の治安について、「良い (12.7%)」又は「どちらかといえば良い (60.4%)」と回答している割合の合計は、73.1%となっています。
- 一方で、「どちらかといえば悪い (12.1%)」又は「悪い (2.3%)」と回答している割合の合計は、14.4%となっています。

【宮城県の治安を悪いと感じる理由】

- 県全体で、宮城県の治安について「どちらかといえば悪い」又は「悪い」の回答のうち、「宮城県の治安を悪いと感じる理由」の割合が最も高かったのは、「事件や事故が多くなったと感じるから (73.9%)」で、次いで「身近な場所で犯罪が発生しているから (45.6%)」、「凶悪事件などがマスコミなどで報じられているから (37.1%)」の順となっています。

【重点的に取り締まってほしい犯罪】

- 県全体で、「重点的に取り締まってほしい犯罪」の割合が最も高かったのは、「振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺 (62.7%)」で、次いで「殺人、強盗などの凶悪な犯罪 (60.1%)」、「飲酒運転、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反 (60.0%)」の順となっています。

【犯罪に遭うかもしれないと不安を感じる場所】

- 県全体で、「犯罪に遭うかもしれないと不安を感じる場所」の割合が最も高かったのは、「路上 (49.8%)」で、次いで「繁華街 (43.8%)」、「インターネット空間 (37.7%)」の順となっています。

図 1 宮城県の治安の実感について (県全体)

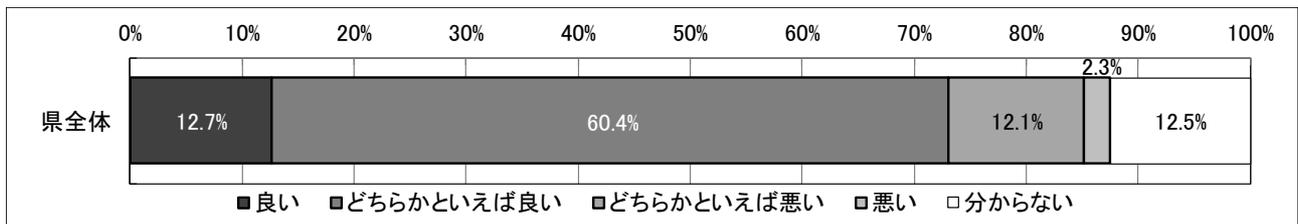


図 2 宮城県の治安を悪いと感じる理由（県全体・地域別）

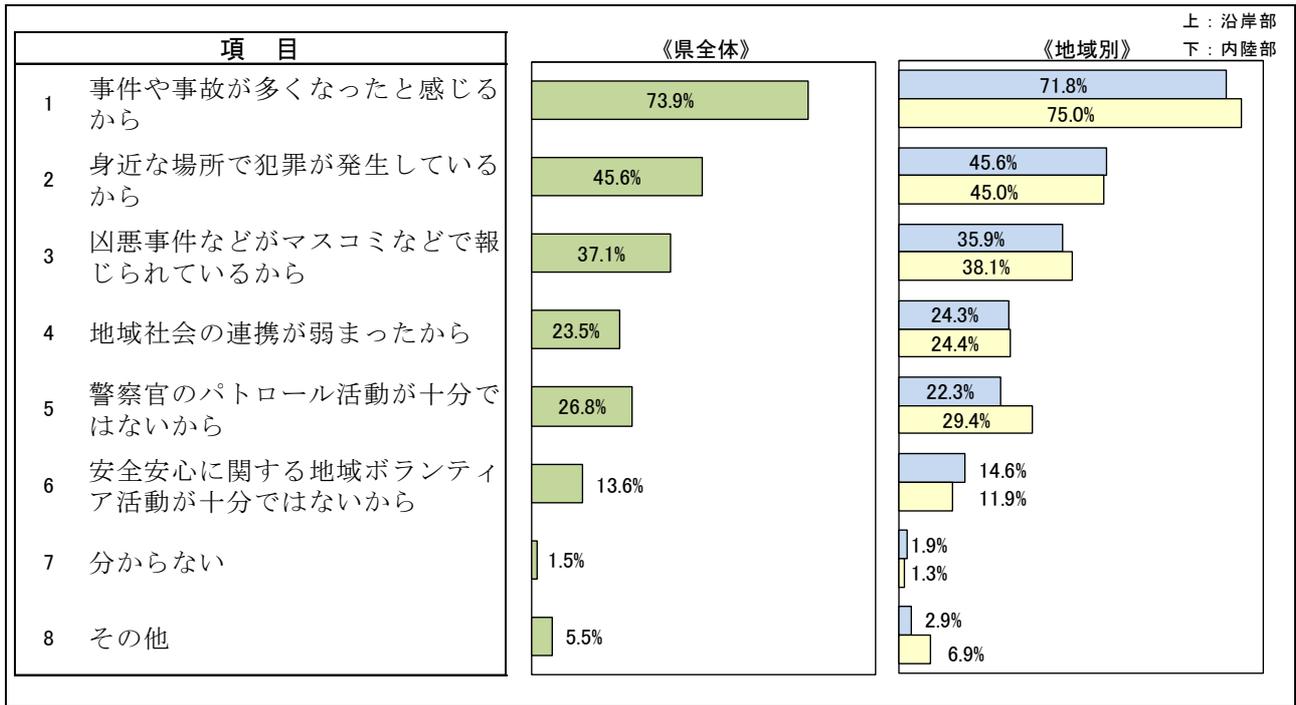


図 3 重点的に取り締まってほしい犯罪 (県全体・地域別)

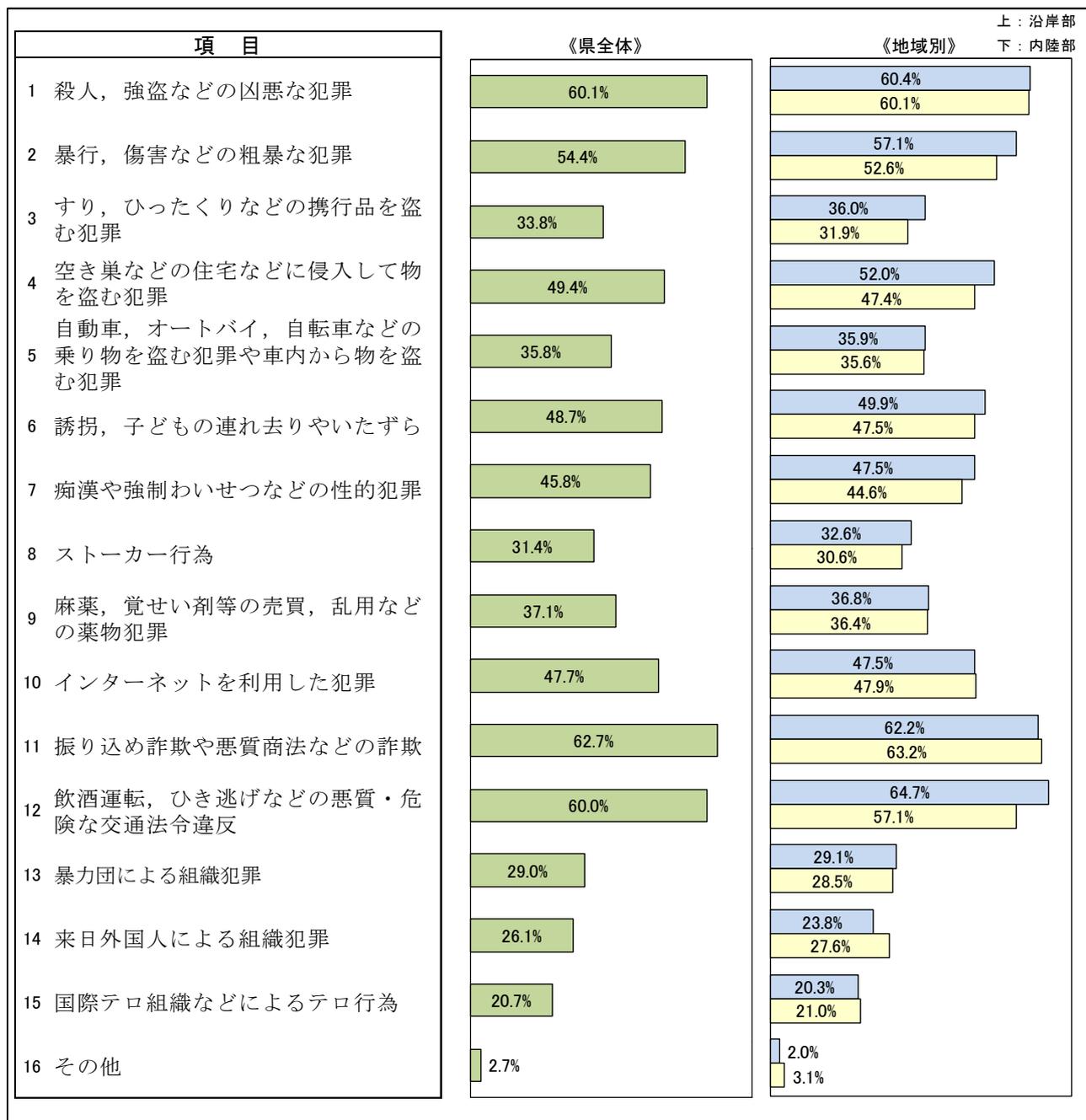
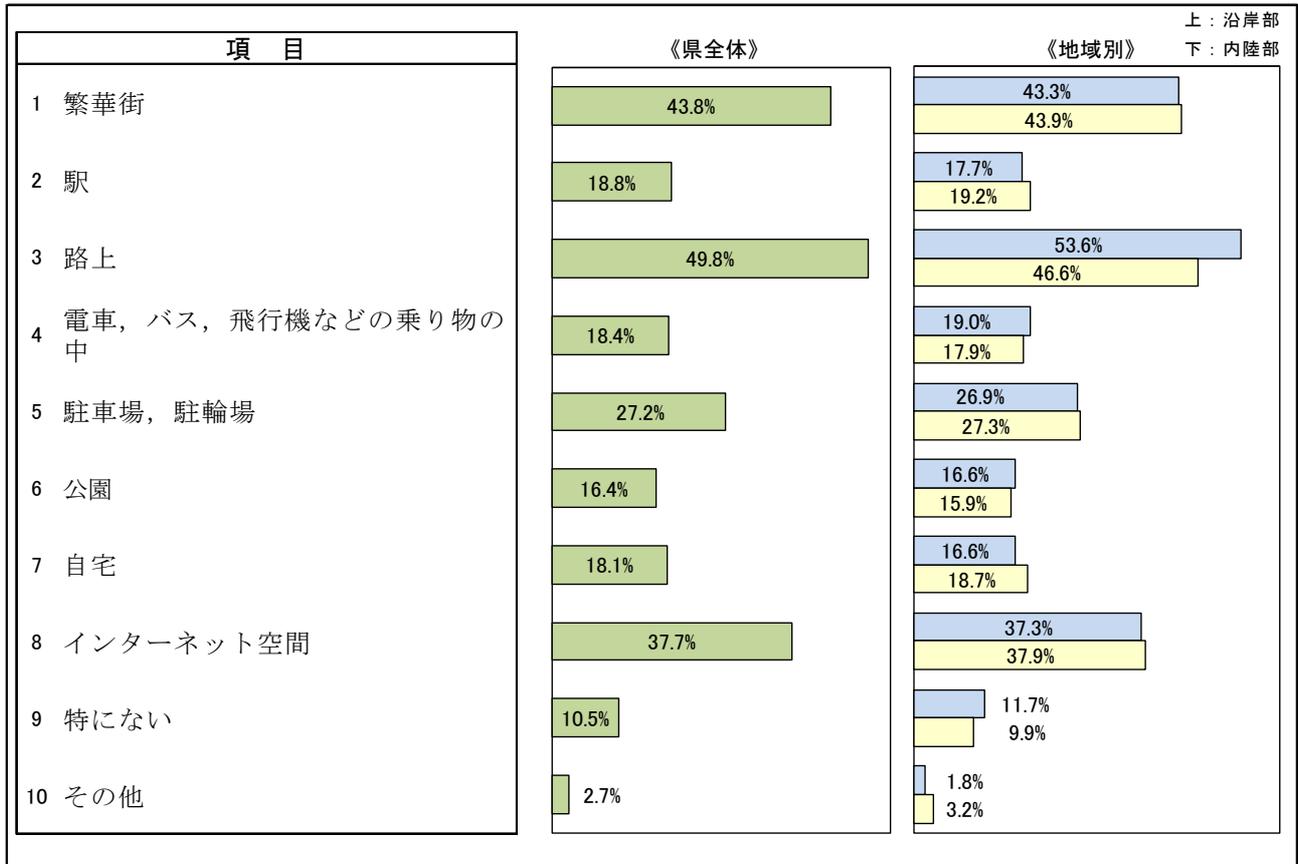


図 4 犯罪に遭うかもしれないと不安を感じる場所 (県全体・地域別)



(2) 救急電話相談ダイヤルについて

調査結果の概要

【「おとな救急電話相談」の認知度について】

○県全体で、「おとな救急電話相談」の認知度について回答している割合は、「知っている (20.8%)」、「知らない (79.2%)」となっています。

【「おとな救急電話相談」を知ったきっかけ】

○県全体で、「おとな救急電話相談」の認知度について「知っている」の回答のうち、『おとな救急電話相談』を知ったきっかけの割合が最も高かったのは、「県政だより (58.0%)」で、次いで「テレビ (30.1%)」、「チラシ (19.2%)」の順となっています。

【「おとな救急電話相談」の利用経験について】

○県全体で、「おとな救急電話相談」の利用経験について回答している割合は、「利用したことがある (1.3%)」、「利用したことがない (98.6%)」、「利用しようとしたがなかった (0.2%)」となっています。

【「こども夜間安心コール」の認知度について】

○県全体で、「こども夜間安心コール」の認知度について回答している割合は、「知っている (27.6%)」、「知らない (72.4%)」となっています。

【「こども夜間安心コール」を知ったきっかけ】

○県全体で、「こども夜間安心コール」の認知度について「知っている」の回答のうち、『こども夜間安心コール』を知ったきっかけの割合が最も高かったのは、「県政だより (46.8%)」で、次いで「チラシ (25.4%)」、「テレビ (22.1%)」の順となっています。

【「こども夜間安心コール」の利用経験について】

○県全体で、「こども夜間安心コール」の利用経験について回答している割合は、「利用したことがある (4.0%)」、「利用したことがない (95.8%)」、「利用しようとしたがなかった (0.2%)」となっています。

図 5 「おとな救急電話相談」の認知度について (県全体)

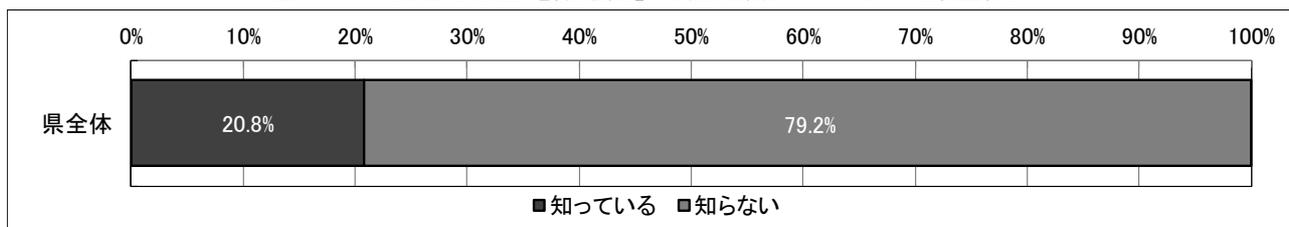


図 6 「おとな救急電話相談」を知ったきっかけ（県全体・地域別）

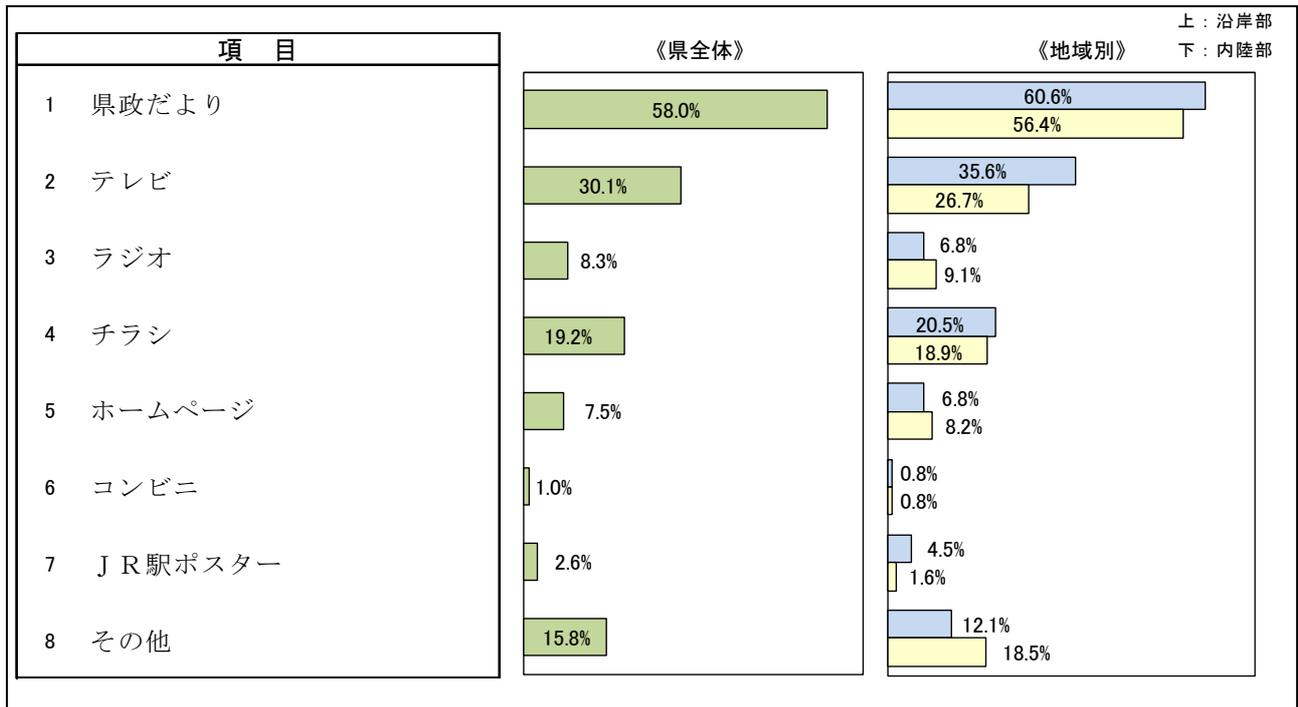


図 7 「おとな救急電話相談」の利用経験について（県全体）

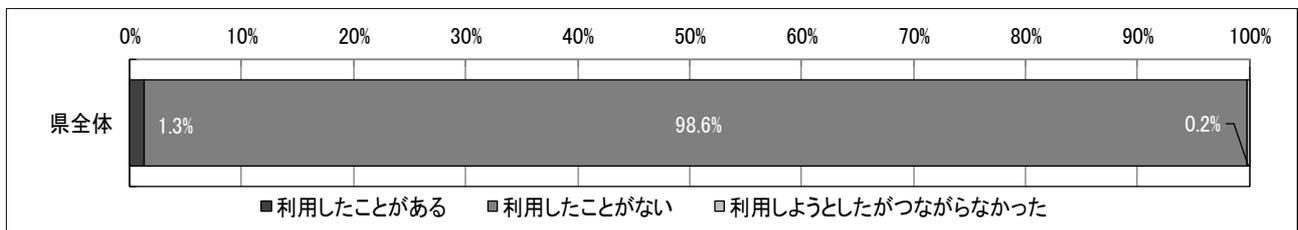


図 8 「こども夜間安心コール」の認知度について (県全体)

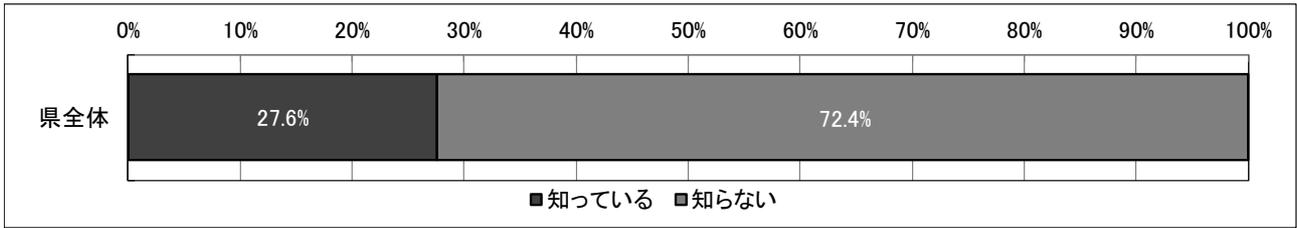


図 9 「こども夜間安心コール」を知ったきっかけ (県全体・地域別)

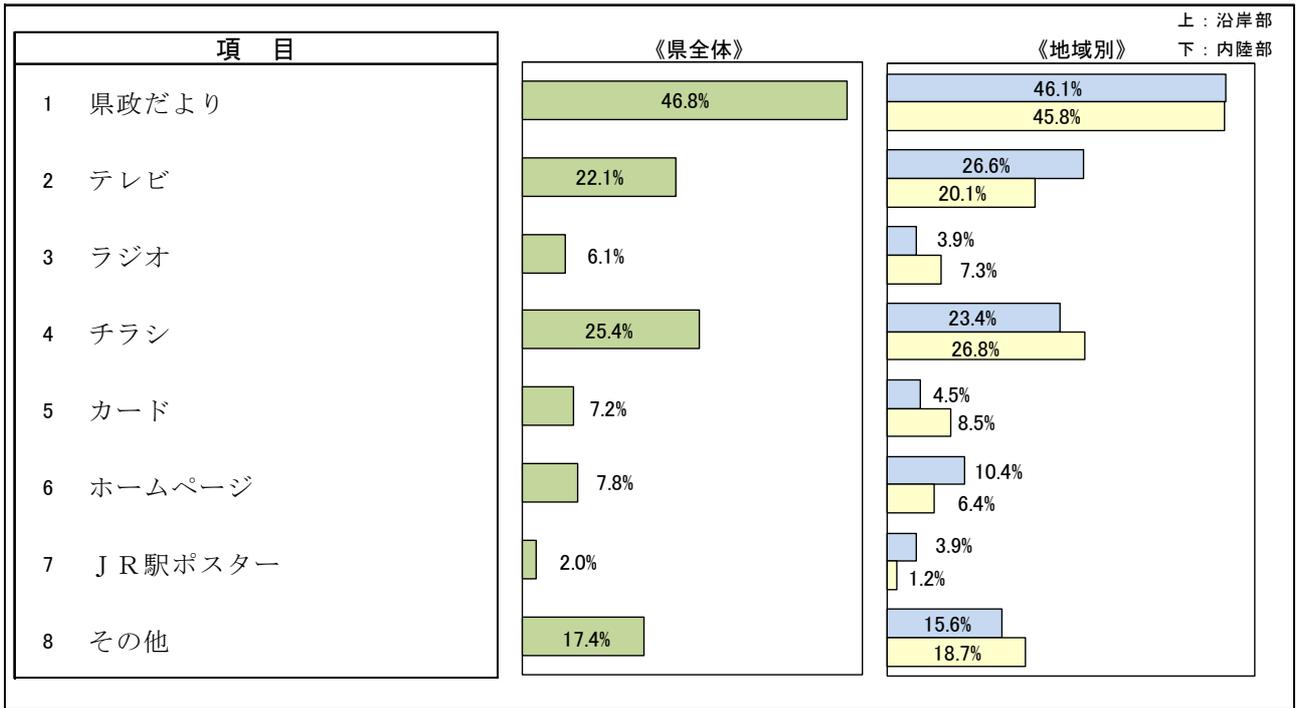
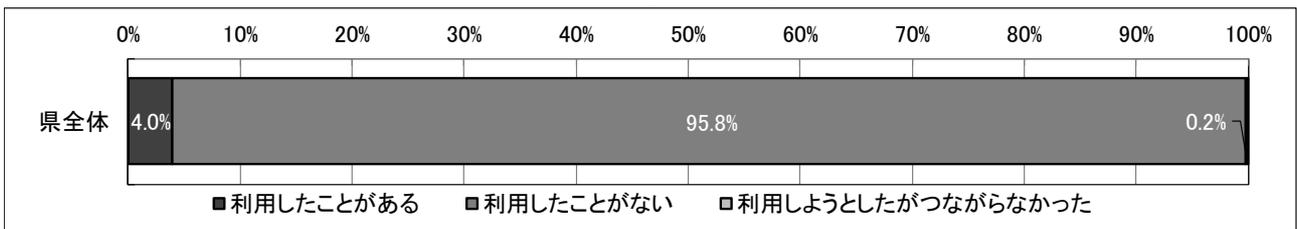


図 10 「こども夜間安心コール」の利用経験について (県全体)



(3) 気候変動の影響への「適応策」について

調査結果の概要

【近年の気候変動による生活への影響について】

- 県全体で、近年の気候変動による生活への影響について、「影響がある (40.2%)」又は「どちらかといえば影響がある (39.0%)」と回答している割合の合計は、79.2%となっています。
- 一方で、「どちらかといえば影響はない (8.8%)」又は「影響はない (5.3%)」と回答している割合の合計は、14.1%となっています。

【気候変動の影響を感じる理由】

- 県全体で、近年の気候変動による生活への影響について「影響がある」又は「どちらかといえば影響がある」の回答のうち、「気候変動の影響を感じる理由」の割合が最も高かったのは、「夏の暑さ(夏の暑さがひどくなったなど) (81.9%)」で、次いで「雨の降り方や台風(大雨や大型台風が増えたなど) (80.3%)」、「雪の降り方(多くなった, 時期が変わったなど) (10.2%)」の順となっています。

【「適応策」の認知度について】

- 県全体で、「適応策」の認知度について回答している割合は、「意味まで知っている (10.1%)」、「言葉は聞いたことがある (41.1%)」、「知らない(初めて聞く言葉である) (48.8%)」となっています。

【「適応策」を知ったきっかけ】

- 県全体で、「適応策」の認知度について「意味まで知っている」又は「言葉は聞いたことがある」の回答のうち、『「適応策」を知ったきっかけ』の割合が最も高かったのは、「テレビ, 新聞, ラジオ (93.5%)」で、次いで「本・雑誌 (10.1%)」、「インターネット, SNS (9.2%)」の順となっています。

【「適応策」について知りたいこと】

- 県全体で、『「適応策」について知りたいこと』の割合が最も高かったのは、「気候変動の影響の現状と将来について (63.4%)」で、次いで「個人でできる取組について (58.3%)」、「『適応策』の考え方について (25.4%)」の順となっています。

図 11 近年の気候変動による生活への影響について (県全体)

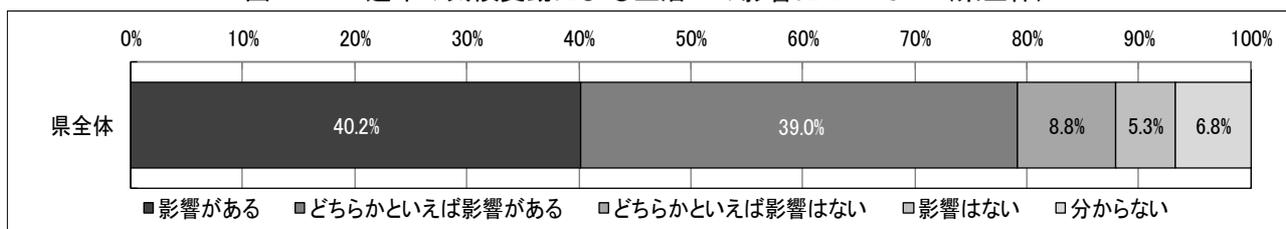


図 12 気候変動の影響を感じる理由 (県全体・地域別)

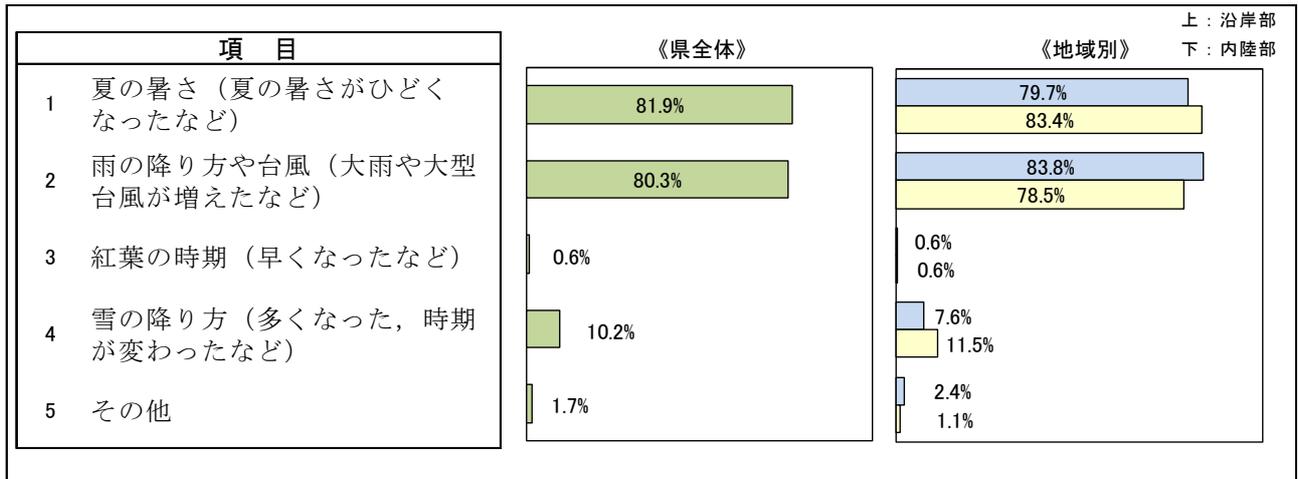


図 13 「適応策」の認知度について (県全体)

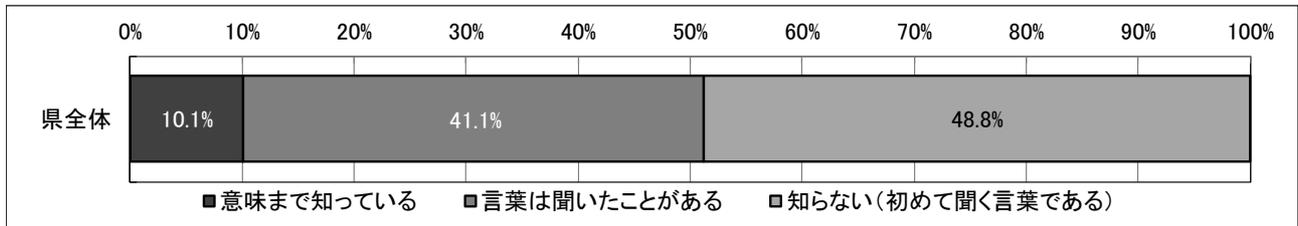


図 14 「適応策」を知ったきっかけ (県全体・地域別)

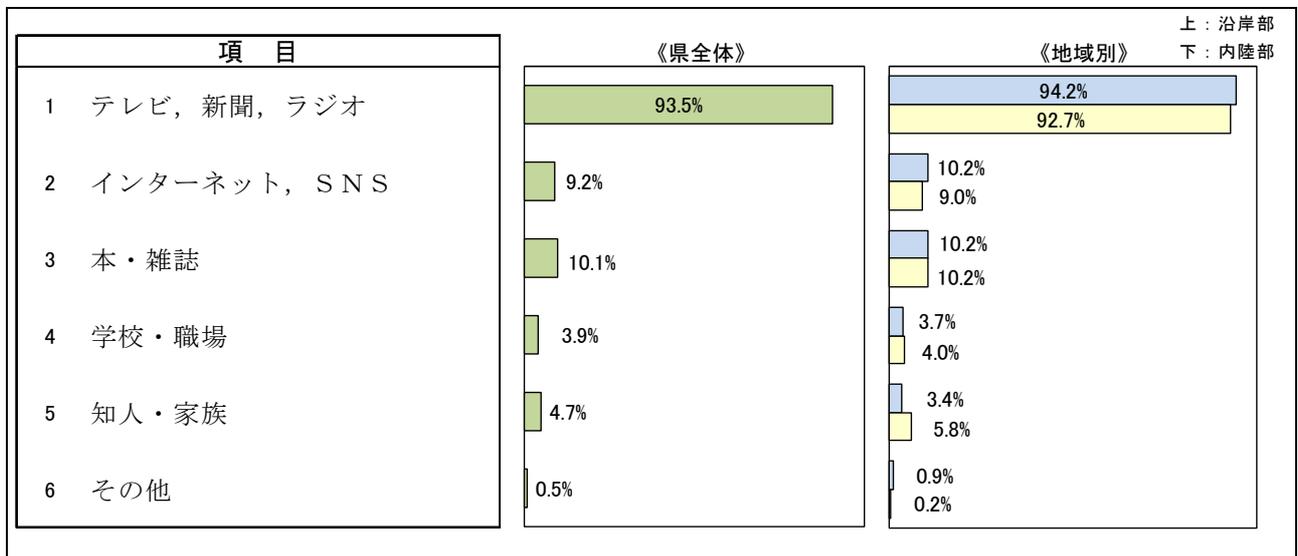
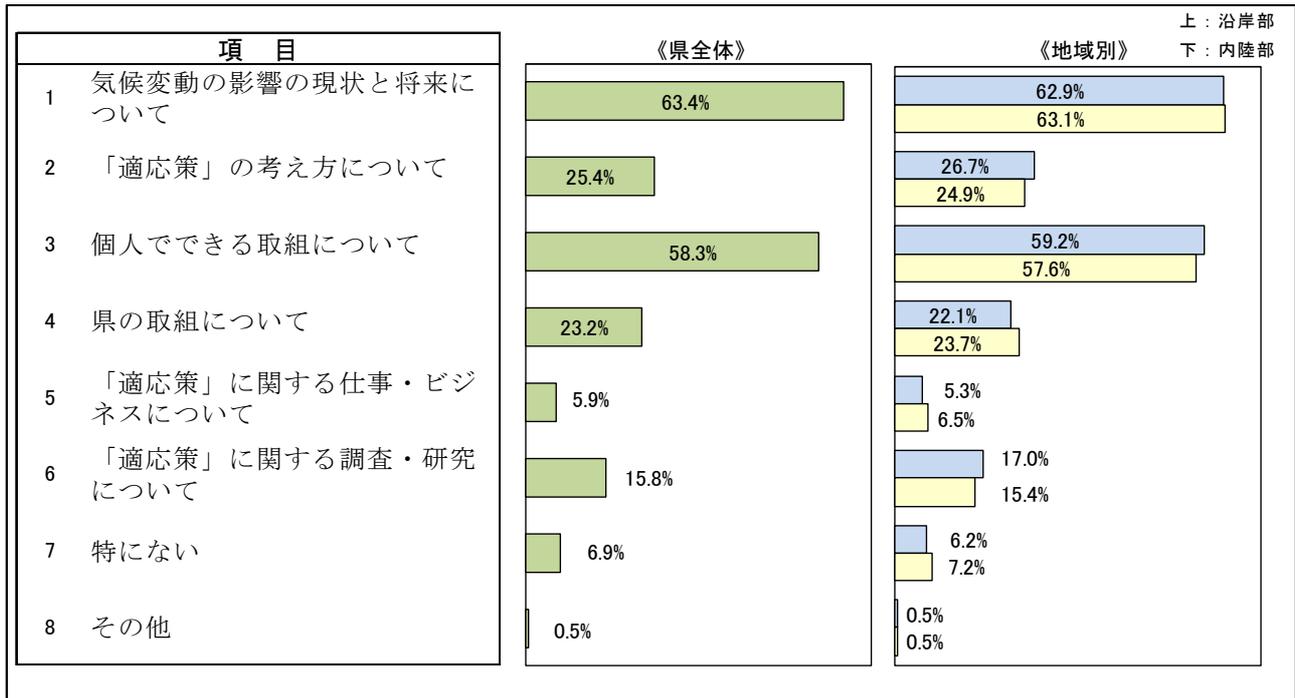


図 15 「適応策」について知りたいこと (県全体・地域別)



(4) 地方創生について

調査結果の概要

【地方創生に対する認知度について】

- 県全体で、地方創生に対する認知度について、「知っている (8.4%)」又は「ある程度知っている (30.3%)」と回答している割合を合わせた「高認知群割合」は、38.7%となっています。
- 一方で、「あまり知らない (40.0%)」又は「知らない (21.2%)」と回答している割合を合わせた「低認知群割合」は、61.2%となっています。

【地方創生に対する関心度について】

- 県全体で、地方創生に対する関心度について、「関心がある (18.9%)」又は「ある程度関心がある (48.0%)」と回答している割合を合わせた「高関心群割合」は、66.9%となっています。
- 一方で、「あまり関心がない (25.0%)」又は「関心がない (8.1%)」と回答している割合を合わせた「低関心群割合」は、33.1%となっています。

【地方創生に対する重視度について】

- 県全体で、地方創生に対する重視度について、「重要 (31.7%)」又は「やや重要 (40.7%)」と回答している割合を合わせた「高重視群割合」は、72.4%となっています。
- 一方で、「あまり重要ではない (10.2%)」又は「重要ではない (1.9%)」と回答している割合を合わせた「低重視群割合」は、12.1%となっています。

【地方創生に対する満足度について】

- 県全体で、地方創生に対する満足度について、「満足 (2.0%)」又は「やや満足 (26.4%)」と回答している割合を合わせた「満足群割合」は、28.4%となっています。
- 一方で、「やや不満 (19.9%)」又は「不満 (7.3%)」と回答している割合を合わせた「不満群割合」は、27.2%となっています。

【宮城県において地方創生に対応するために最も優先すべき取組】

- 県全体で、「宮城県において地方創生に対応するために最も優先すべき取組」の割合が最も高かったのは、「若い世代の経済的安定 (29.8%)」で、次いで「子ども・子育て支援の充実 (11.0%)」、「地域を支える個別産業分野の戦略推進 (9.3%)」の順となっています。

【宮城県において地方創生に対応するために優先すべき取組】

- 県全体で、「宮城県において地方創生に対応するために優先すべき取組」の割合が最も高かったのは、「若い世代の経済的安定 (14.6%)」で、次いで「子ども・子育て支援の充実 (12.4%)」、「妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援 (10.8%)」の順となっています。

図 16 地方創生に対する認知度について (県全体)

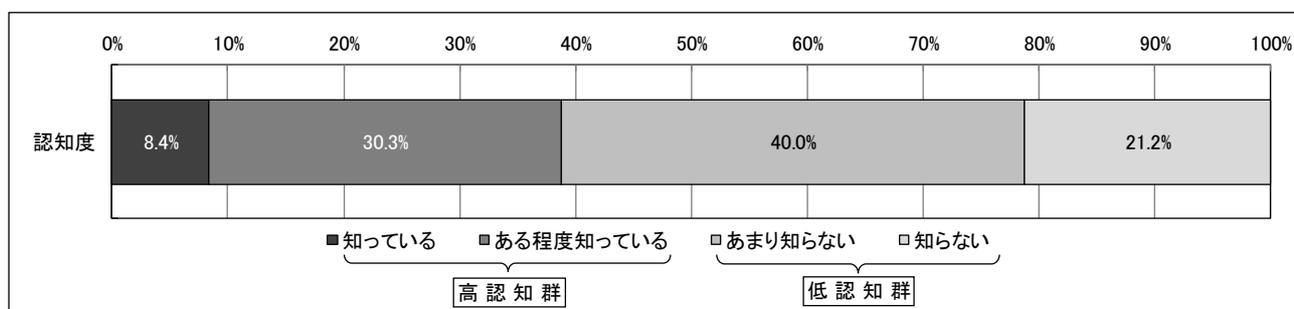


表 1 地方創生に対する高認知群割合 (回答者属性別)

区分	県全体	性別		年代別		地域別		圏域別						
		男性	女性	65歳未満	65歳以上	沿岸部	内陸部	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
高認知群	38.7%	37.6%	39.8%	34.0%	44.8%	35.8%	40.6%	40.4%	33.0%	41.4%	40.5%	40.0%	37.5%	38.1%

図 17 地方創生に対する関心度について (県全体)

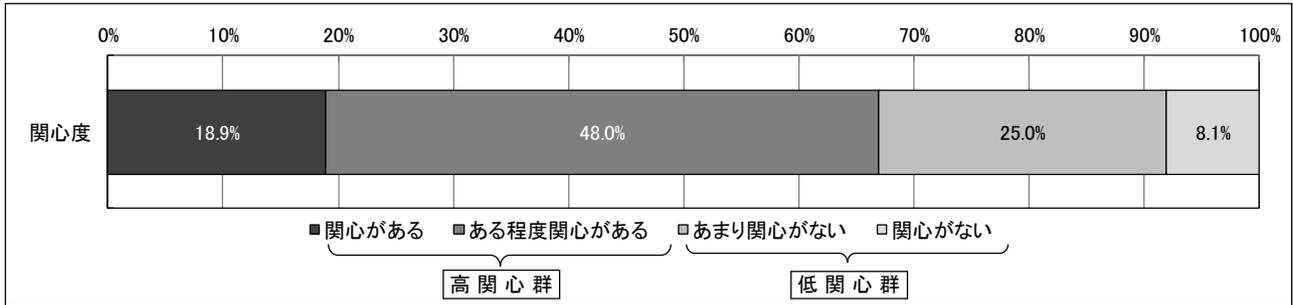


表 2 地方創生に対する高関心群割合 (回答者属性別)

区分	県全体	性別		年代別		地域別		圏域別						
		男性	女性	65歳未満	65歳以上	沿岸部	内陸部	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
高関心群	66.9%	67.2%	66.5%	63.8%	70.9%	65.0%	68.0%	68.3%	67.1%	70.1%	69.4%	64.9%	63.1%	64.6%

図 18 地方創生に対する重視度について (県全体)

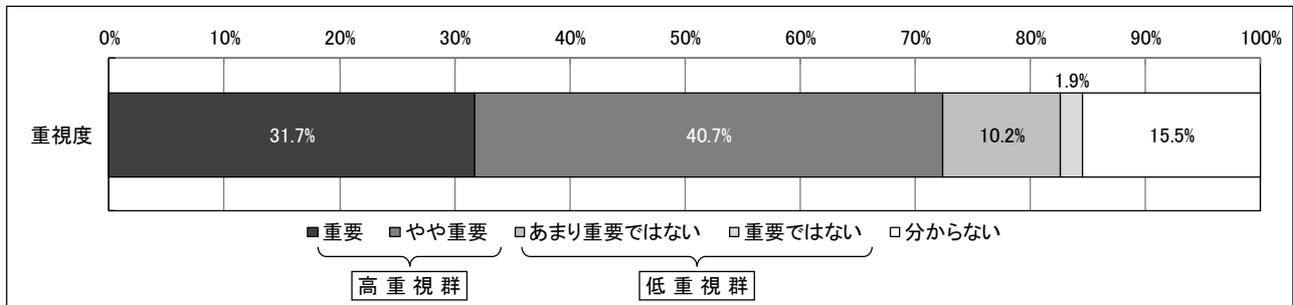


表 3 地方創生に対する高重視群割合 (回答者属性別)

区分	県全体	性別		年代別		地域別		圏域別						
		男性	女性	65歳未満	65歳以上	沿岸部	内陸部	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
高重視群	72.4%	73.8%	71.1%	72.1%	72.8%	70.3%	73.7%	76.8%	71.0%	75.2%	71.9%	71.7%	69.5%	70.5%

図 19 地方創生に対する満足度について (県全体)

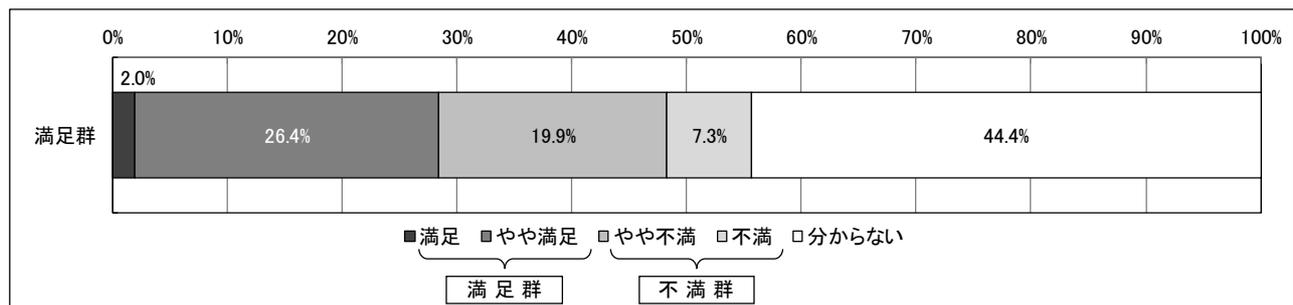


表 4 地方創生に対する満足群割合 (回答者属性別)

区分	県全体	性別		年代別		地域別		圏域別						
		男性	女性	65歳未満	65歳以上	沿岸部	内陸部	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
満足群	28.4%	28.0%	28.6%	22.8%	35.8%	27.5%	28.5%	28.5%	24.3%	30.2%	26.1%	28.4%	31.8%	27.3%

表 5 地方創生に対する不満群割合 (回答者属性別)

区分	県全体	性別		年代別		地域別		圏域別						
		男性	女性	65歳未満	65歳以上	沿岸部	内陸部	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
不満群	27.2%	30.3%	24.1%	28.4%	25.3%	25.8%	28.2%	29.3%	23.9%	27.5%	28.8%	27.6%	22.6%	31.2%

図 20 宮城県において地方創生に対応するために最も優先すべき取組 (県全体・地域別)

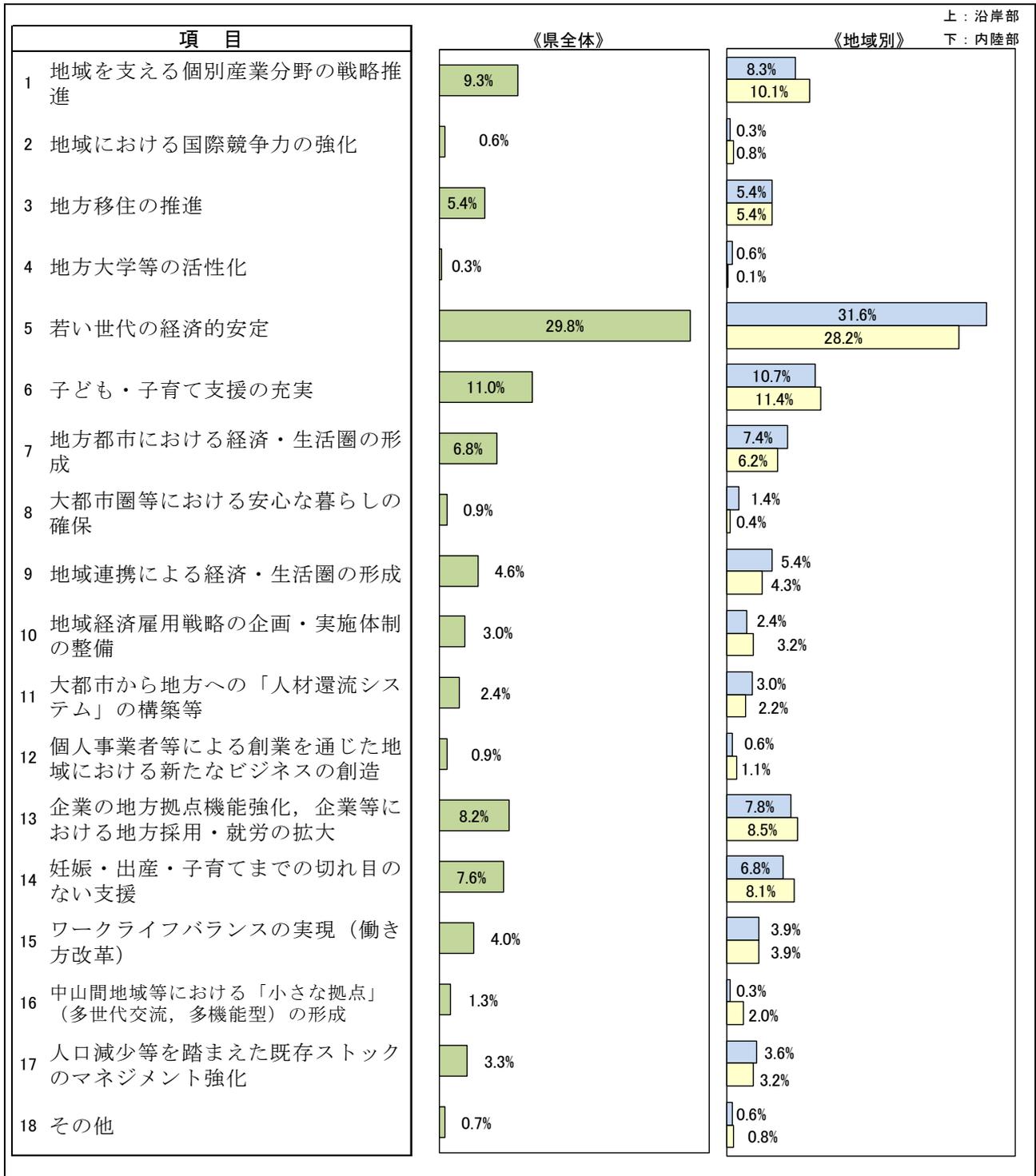
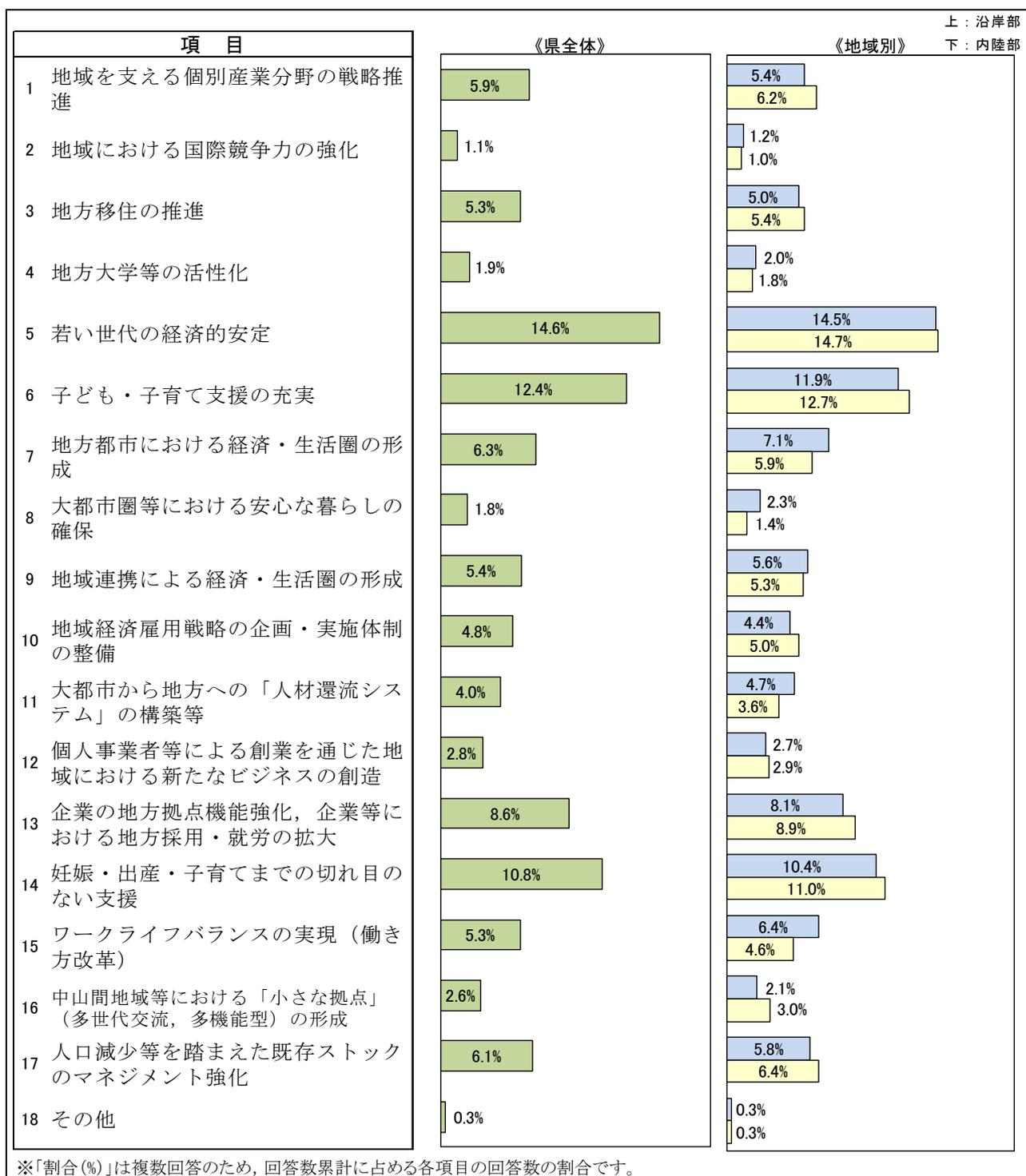


図 2 1 宮城県において地方創生に対応するために優先すべき取組 (県全体・地域別)





むすび丸

復興へ
頑張ろう！
みやぎ